教育・社会福祉専門課程「介護福祉学科」カリキュラム編成表

必修・選択の別	科目区分		授業科目	第１学年 週間授業時数 前期	第１学年 週間授業時数 後期	第１学年 年間授業時数	第２学年 週間授業時数 前期	第２学年 週間授業時数 後期	第２学年 年間授業時数	授業時数計	単位数	実務経験のある教員等による授業
必修	人間と社会	人間の理解	人間の尊厳と自立(講義)	2		30				30	2	○
			人間関係とコミュニケーション(講義)	2	2	60				60	4	○
		社会の理解	社会の理解A(講義)				2		30	30	2	○
			社会の理解B(講義)					2	30	30	2	○
			ビジネスマナー(文章表現法)(講義)	2		30				30	2	○
			福祉住環境の基礎知識(講義)				2		30	30	2	○
			レクリエーション支援の基礎(演習)	2	2	60				60	2	○
	介護		介護の基本Ⅰ(講義)	4		60				60	4	○
			介護の基本Ⅱ(講義)		4	60				60	4	○
			介護の基本Ⅲ(講義)					4	60	60	4	○
			コミュニケーション技術A(演習)	2		30				30	1	○
			コミュニケーション技術B(演習)		2	30				30	1	○
			生活支援技術A(演習)	2	2	60				60	2	○
			生活支援技術B(演習)	2	2	60				60	2	○
			生活支援技術C(演習)	2	2	60				60	2	○
			生活支援技術D(演習)		4	60				60	2	○
			生活支援技術E(演習)				4		60	60	2	○
			介護過程Ⅰ(演習)	2		30				30	1	○
			介護過程Ⅱ(演習)		2	30				30	1	○
			介護過程Ⅲ(演習)				4		60	60	2	○
			介護過程Ⅳ(演習)					2	30	30	1	○
			介護総合演習Ⅰ(演習)	2		30				30	1	○
			介護総合演習Ⅱ(演習)		2	30				30	1	○
			介護総合演習Ⅲ(演習)				2		30	30	1	○
			介護総合演習Ⅳ(演習)					2	30	30	1	○
			介護実習Ⅰ(実習)	4	8	180				180	4	○
			介護実習Ⅱ(実習)				10	8	270	270	6	○
	こころとからだのしくみ		発達と老化の理解Ⅰ(講義)	2		30				30	2	○
			発達と老化の理解Ⅱ(講義)		2	30				30	2	○
			認知症の理解Ⅰ(講義)		2	30				30	2	○
			認知症の理解Ⅱ(講義)				2		30	30	2	○
			障害の理解Ⅰ(講義)	2		30				30	2	○
			障害の理解Ⅱ(講義)				2		30	30	2	○
			こころとからだのしくみⅠ(講義)	2		30				30	2	○
			こころとからだのしくみⅡ(講義)	2		30				30	2	○
			こころとからだのしくみⅢ(講義)				2		30	30	2	○
			こころとからだのしくみⅣ(講義)					2	30	30	2	○
	医療的ケア		医療的ケア(講義)				2	3	75	75	5	○
			医療的ケア(救急蘇生含む)(演習)					2	30	30	1	○
			国家試験対策(演習)					2	30	30	1	○
必修科目授業数						1,080			885	1,965	86	
卒業に必要な総授業数						1,080			885	1,965	86	

＊１　同一科目名称でⅠ・Ⅱ・Ⅲ～とあるのは履修順序を示す。

＊２　同一科目名称でＡ・Ｂ・Ｃ～とあるのは履修順序を示さない。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
人間の尊厳と自立	講　義 （　講義　・　演習　・　実習　）	田中　雅子 （前職：介護福祉士）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（2）	1年	必修

[授業の目的・ねらい]
人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う学習とする。

[授業全体の内容]
人間の多面的理解（自己理解・他者理解）・人権尊重と権利擁護（アドボカシー）・自立支援とワーカークライエント関係

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
「人間」の理解を図る。人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解する。人権擁護の視点、職業倫理を身につける。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
原則として、演習を中心としながら、適宜、講義も組み込む。

コマ数	
1	オリエンテーション、人間の尊厳と自立
2	人間理解と尊厳
3	「人間」の多面的目的理解
4	人間の尊厳
5	自立・自律
6	介護における尊厳の保持・自立支援
7	人権と尊厳
8	人権と尊厳
9	権利擁護・アドボカシー
10	人権尊重
11	権利擁護・アドボカシー
12	身体的な自立支援
13	精神的自立支援
14	社会的な自立支援
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など）
最新・介護福祉士養成講座第1巻　人間の理解　中央法規出版 プリントを配布する。	講義終了後、試験の点数を主として 出席状況を含めて評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
人間関係とコミュニケーション	講　義 （　講義　・　演習　・　実習　）	高桑　到 （現職：介護福祉士）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×30回	60時間（4）	1年	必修

[授業の目的・ねらい]
1. 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。
2. 介護の質を高めるために必要なチームマネジメントの基礎知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。

[授業全体の内容]
人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を理解する内容とする。
介護実践をマネージメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用などの人材管理、それらに必要なリーダーシップなど、チーム運営の基本を理解する内容とする。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
利用者においてに対して、あるいは多種協働で進めるチームケアにおいて、円滑なコミュニケーションのとり方の基本を身につけ、分かりやすい説明や的確な記録、記述方法を身につける。他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける。
人間関係の形成やチームで働く力を養うための、コミュニケーションやチームマネージメントの知識を身につけ、実践に役立たせる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
原則として、演習を中心としながら、適宜、講義も組み込む。

コマ数	第2章　人間関係とコミュニケーション 第1節　人間関係の中で生きる人間の理解
1	人間関係の形成　人間関係と心理、
2	人間関係と心理
3	対人関係・コミュニケーション
4	コミュニケーションを促す環境
5	人間関係形成のプロセス
6	コミュニケーションを促す環境
7	コミュニケーションの技法、対人距離
8	コミュニケーションの基礎
9	対人関係とコミュニケーション
10	受容・共感・傾聴
11	コミュニケーションの技法、対人距離
12	記述によるコミュニケーション
13	道具を用いた言語コミュニケーション
14	人間関係を育てるコミュニケーション
15	コミュニケーションの技法と実際

	第3章　介護実践におけるチームマネージメント 第1節　チームマネージメントの意義
16	専門職としての役割と機能について
17	チームで働く力を養うためのコミュニケーション
18	チームマネージメントについて
19	他職種連携のありかた
20	第2節　ケアを展開するためのマネージメント
21	介護実践に必要な組織の在り方
22	介護の実践をマネージメントする
23	介護実践に必要な運営管理
24	第3節　人材育成・自己研鑽のためのマネージメント
25	人材管理について
26	人材管理に必要なリーダーシップ
27	フォロワーシップについて
28	第4節　組織の目標達成のためのマネジメント
29	チーム運営の基本
30	まとめ

[使用テキスト・参考文献]
最新・介護福祉士養成講座第1巻　人間の理解　中央法規出版
第2章　第3章

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）
講義終了後、試験の点数を主として
出席状況を含めて評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
社会の理解A	講　義 （　講義　・　演習　・　実習　）	三浦　譲 （前職：介護福祉士） 長井賢希 （前職：介護福祉士）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（2）	2年　前期	必　修

[授業の目的・ねらい]
個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間をとらえる視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解するための学習とする。わが国の社会保障の基本的考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する学習とする。
[授業全体の内容]
社会と生活仕組み　　地域共生社会の実現に向けた制度や施策
地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的考え方としくみ、その実現のための制度や施策を理解する内容する内容
社会保障制度の基本的な考え方としくみを理解するとともに、社会保障制度の現状と施策を理解する内容とする。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
従来、個人や家族間で行なわれてきた「支援」を、現在は「社会」が中心になって行なっている理由を自分なりに整理し、その理由を理解することができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
学生は小グループに別れ演習とする。社会についてのさまざまな視点からのディスカッションを行なう。教員は基礎的な知識の理解とディスカッションの補足のために講義をあわせて行なう。

コマ数	
1	オリエンテーション、生活と福祉
2	家庭生活の基本機能
3	家族
4	地域
5	社会、組織
6	ライフスタイルの変化
7	社会構造の変容
8	生活支援と福祉
9	社会保障制度
10	社会保障の基本的な考え方
11	日本の社会保障制度の発達
12	日本の社会保障制度の発達
13	日本の社会保障制度のしくみの基礎的理解
14	現代社会における社会保障制度
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など）
最新・介護福祉士養成講座第2巻　社会と制度の理解　中央法規出版 第1章　2章　3章	講義終了後、試験の点数を主として 出席状況を含めて評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
社会の理解B	講　義 （　講義　・　演習　・　実習　）	清水　剛志 （現職：社会福祉士）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（2）	2年　後期	必　修

[授業の目的・ねらい]
介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害自立支援制度について介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する学習とする。
介護実践に必要とされる観点から、個人情報保護や成年後見制度などの基礎的知識を習得する学習とする。

[授業全体の内容]
高齢者福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容を理解し、高齢者福祉の現状と課題をとらえる内容とする。障害者福祉制度の基本的な考え方としくみ、障害者総合支援法の内容を理解し障害者福祉の現状と課題をとらえる内容。人間の尊厳と自立に関わる権利擁護や個人情報保護など、介護実践に関連する制度、施策の基本的な考え方としくみを理解する内容とする。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
従来、個人や家族間で行なわれてきた「支援」を、現在は「社会」が中心になって行なっている理由を自分なりに整理し、その理由を理解することができる。また自分なりの考えや意見はその時点での正解を求めるよりもディスカッションを通して新しい段階を考え発展させることができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
学生は小グループに別れ演習とする。社会についてのさまざまな視点からのディスカッションを行なう。教員は基礎的な知識の理解とディスカッションの補足のために講義をあわせて行なう。また、デスカッションの資料としてビデオを見たり新聞の切抜きのコピーを配布したりする。グループ発表したりすることで考えの学生・教員の共有化する。

コマ数	
1	オリエンテーション、介護保険制度
2	介護保険制度創設の背景及び目的、介護保険制度の動向
3	介護保険制度のしくみの基礎的理解
4	介護保険制度における組織、団体の役割
5	介護保険制度における専門職の役割
6	障害者自立支援制度
7	障害者自立支援制度の背景及び目的
8	障害者自立支援制度のしくみの基礎知識
9	障害者自立支援制度における組織、団体の機能と役割
10	介護実践に関する諸制度
11	個人の権利を守る制度の概要
12	保健医療福祉に関する施策の概要
13	介護と関連領域との連携に必要な法規
14	生活保護制度の概要
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など）
最新・介護福祉士養成講座第2巻　社会と制度の理解　中央法規出版 第4章　5章　6章	講義終了後、試験の点数を主として 出席状況を含めて評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
ビジネスマナー	講　義 （　講義　・　演習　・　実習　）	境井　智子 （現職：マナー講師）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（2）	1年	必修

[授業の

介護福祉士として、ビジネスマナー（文書表現法）の基本を身につけることにより、豊な知識と教養、人間性を身につけ、社会に出て、即戦力として活躍できる人材育成を目指す。

[授業全体の内容]

文章による表現の基本、注意点（作業ﾏﾅｰ）　履歴書の書き方

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

就職に向けて、社会人としてのマナーを身につける

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

その実践・応用として、作文練習と個別添削で表現力をつける

コマ数	
1 2 3	就活マナーの必要性　第一印象の大切さ　挨拶　表情　身だしなみチェック 自分を分析する　履歴書を書く　　自己紹介を書く　敬語の基本を確認する
4 5 6	名乗りのマナー　履歴書の修正　　添状の書き方　　封筒の書き方
7 8 9	電話のマナー　　電話対応の振り返り　履歴書修正　面接の基本的なマナー 入室退室動作の実践
10 11	話し方　聞き方のポイント　　面接のトレーニング
12 13	面接応対　VTRチェック
14 15	求人票やホームページ　情報収集、就活ノート 集団面接トレーニング

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
自作（毎回の授業時に配布） 提出作文のうち、見本/手本となるもの及び参考資料を印刷し、補充教材とする。	（試験やレポートの評価基準など）

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
福祉住環境の基礎知識	講　義 （　講義　・　演習　・　実習　）	梶　美江子 （前職：建築士） 高野　一江 （前職：看護師） 長井　賢希 （前職：介護福祉士）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（2）	2年	必　修

[授業の目的・ねらい]
高齢者や障害者に対して住みやすい住環境を提案アドバイスができるため、医療・福祉・建築・社会環境について体系的で幅広い基礎知識を身につける。

[授業全体の内容]
生活を支える用具及び福祉用具,福祉住環境の重要性と福祉住環境コーデネーターの役割,バリアフリーとユニバーサルデザインの考え方

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
福祉環境コーディネーター3級検定試験受験

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰにて図説等を交えた講義及びプランニング実習を含む

コマ数		
1 2	オリエンテーション [暮らしやすい生活環境を目指して]	・少子化高齢社会の現状と課題や地域社会の取組み ・福祉住環境の重要性と福祉住環境コーデネーターの役割 ・介護保険制度・障害者自立支援法
3	[健康と自立めざして]	・高齢者の健康と自立
4	[健康と自立めざして]	・障害者の自立
5	[バリアフリーとユニバーサルデザイン]	・バリアフリーとユニバーサルデザインの考え方
6	[バリアフリーとユニバーサルデザイン]	
7	[安全・快適な住まい]	
8	[安全・快適な住まい]	
9	[安全・快適な住まい]	・住まいの中の安全快適な住まいの整備・配慮
10	[安全・快適な住まい]	
11	[安全・快適な住まい]	
12	[安心できる住生活とまちづくり]	・高齢者や障害者に対応した住環境整備・配慮
13	[安心できる住生活とまちづくり]	・安心して暮らせるまちづくり
14	[過去問題演習]	
15	[修了試験]	

[使用テキスト・参考文献]
福祉住環境ｺｰﾃﾞﾈｰﾀｰ検定試験3級公式テキスト(新)　東京商工会議所発行
最新福祉住環境ｺｰﾃﾞﾈｰﾀｰ3級過去問題集
日本能率協会ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｾﾝﾀｰ
新・介護福祉士養成講座第6巻2版　生活支援技術Ⅰ　中央法規出版

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）
最終試験（70点以上）

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
レクリエーション支援の基礎	講義・演習 （　講義　・　演習　・　実習　）	窪田　真由美 （前職：介護福祉士） 岩見　しのぶ （前職：看護師）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（1）	1年	必修

[授業の目的・ねらい]
レクリエーション学習を体系的に進めることで、利用者の潜在能力や自律的な生活の姿勢を引き出す介護福祉実践を強化することが期待される。利用者の生活の幅を広げ、高いQOLの実現を支える介護福祉士活動の有力な考え方のひとつとしてレクリエーション支援を理解する。

[授業全体の内容]
レクリエーションの基礎、支持論、事業論、コミュニケーションワーク
レクリエーション計画書作成
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
レクリエーション介護士の資格取得

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
原則として、演習を中心としながら、適宜、講義も組み込む。

授業実施場所	教室

コマ数	
1	オリエンテーション
＜理論科目＞	**●レクリエーションの基礎理論（6時間、3コマ以上）**
2	①人を支える「支援者」にとってのレクリエーション
3	②レクリエーション支援の考え方
4	③レクリエーション・インストラクターに期待される役割
	●レクリエーション支援論（6時間、3コマ以上）
5	④一般的なライフステージ上の課題とレクリエーションの関わり
6	⑤学科の特性として想定される主な対象の生活課題とレクリエーションの関わり
7	⑤学科の特性として想定される主な対象の生活課題とレクリエーションの関わり
	●レクリエーション事業論（8時間、4コマ以上）
8	⑥レクリエーション事業の考え方、及び展開方法
9	⑦学科の特性として想定されるプログラム・事業の計画
10	⑦学科の特性として想定されるプログラム・事業の計画
11	⑧同様に、想定されるプログラム・事業に係る安全管理
＜実技科目＞	**●コミュニケーション・ワーク（8時間、4コマ以上）**
12	⑨ホスタピリティトレーニング
13	⑨ホスタピリティトレーニング
14	⑩アイスブレーキング
15	⑩アイスブレーキング

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
レクリエーション介護士2級公式テキスト	（試験やレポートの評価基準など） 筆記試験　実技・事業参加の状況

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
レクリエーション支援の基礎	演　習 （　講義　・　演習　・　実習　）	窪田　真由美 （前職：介護福祉士） 岩見　しのぶ （前職：看護師）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（1）	1年	必修

[授業の目的・ねらい]
レクリエーション活動によってもたらされる「楽しさ」は、人びとの成長や生きがい、人と人のつながりなど、とても多くのものを創りだす。レクリエーションを意図的に活用することで、人びとを支援することができるようなる。レクリエーション支援方法の幅広さ、対象者の主体性を尊重した姿勢など、レクリエーション支援の概要を理解すること。

[授業全体の内容]
目的に合わせたレクワーク、演習、現場で必要なコミュニケーション技法や集団を対象としたレクリエーション・ワークの技術を身につけるため、できるだけ多くの演習に取り組み、都道府県・市区町村レクリエーション協会が実施する事業等を活用しながら、現場での経験を積んでいく。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
レクリエーション介護士2級資格取得

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
原則として、演習を中心としながら、適宜、講義も組み込む。

コマ数		授業実施場所
＜実技科目＞	**●目的にあわせたレク・ワーク（12時間、6コマ以上）**	ホール・体育館
1	⑪目的に沿ったアクティビティ選択	
2	⑪目的に沿ったアクティビティ選択	
3	⑫アクティビティの展開方法	
4	⑫アクティビティの展開方法	
5	⑬相互作用の活用法	
6	⑬相互作用の活用法	
	●対象に合わせたレク・ワーク（8時間、4コマ以上）	ホール・教室
7	⑭対象に合わせたアレンジ法	
8	⑭対象に合わせたアレンジ法	
9	⑭対象に合わせたアレンジ法	
10	⑭対象に合わせたアレンジ法	
	●演習（10時間、5コマ以上）	
11	⑮対象を想定したレクリエーション支援の体験	ホール・体育館・教室
12	⑮対象を想定したレクリエーション支援の体験	
13	⑮対象を想定したレクリエーション支援の体験	
14	⑮対象を想定したレクリエーション支援の体験	
15	⑮対象を想定したレクリエーション支援の体験	

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など）
レクリエーション介護士2級公式テキスト	筆記試験　実技・事業参加の状況

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護の基本Ⅰ	講　義 （　講義　・　演習　・　実習　）	栗田 宋典 （現職：介護福祉士） 長井　賢希 （前職：介護福祉士）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（2）	1年　前期	必修

[授業の目的・ねらい]
「介護の基本Ⅰ」は「介護」を始めて学ぶことを前提として「介護」のイメージを膨らませていく。
介護福祉士としての基礎知識、特に高齢者問題と介護の心得についての知識を学ぶ。

[授業全体の内容]
介護とは何か、介護福祉士の役割は何かを理解することで、介護福祉士を目指す学生の、初めての一歩を引き出していく。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
テキストによる知識の習得だけでなく、自分の考えを伝えたり、人の考えを聞いたり、考えをまとめていく力をつける。
各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
テキストを中心的にして、講義形式を主に進める。

コマ数	第2章介護福祉士の役割と機能
	第1節　介護福祉士を取り巻く状況
1	オリエンテーション、施設サービスの内容と機能
2	ボランティア活動と社会福祉協議会
3	非営利民間活動の状況
4	高齢者向け民間サービスの現状と展望
5	高齢者と生きがいの構造
6	第2節　社会福祉士及び介護福祉士法
7	生きがい社会参加の実際
8	関係機関、施設と専門職
9	保健・医療・福祉の連携
10	介護保険下におけるケアマネージメントとチームアプローチ
11	第3節　介護福祉士養成カリキュラムの変換
12	高齢者
13	事例研究1
14	事例研究2
15	定期試験

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など）
最新・介護福祉士養成講座第3巻　介護の基本Ⅰ　③中央法規出版　第2章	講義終了後、試験の点数を主として 出席状況を含めて評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護の基本Ⅰ	講　義 （　講義　・　演習　・　実習　）	長井　賢希 （前職：介護福祉士） 岩見　しのぶ （前職：看護師）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（2）	1年　前期	必修

[授業の目的・ねらい]
尊厳の保持・自立支援という新しい介護の考え方を理解するとともに介護を必要とする人を生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全チームケア等について理解するための学習とする。

[授業全体の内容]
介護、介護福祉士、専門職

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
介護の歴史や介護問題の背景を理解し、介護福祉士を取り巻く社会状況を認識できる。各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
事例や演習を交えて、ディスカッションしながら講義を進める。
ビデオを用いて実際の介護場面をイメージしながら授業を進めていく。
最近の新聞記事や資料を用いて、身近なことから理解を深める。

コマ数	介護福祉士の基本となる理念　介護福祉士の倫理
1	オリエンテーション、介護・介護福士を取り巻く状況
2	介護の歴史
3	介護問題の背景　少子高齢化、家族機能の変化、介護の社会化、高齢者虐待、介護ニーズの変化　その他
4	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ　社会福祉士及び介護福祉士法
5	介護福祉士の定義　介護福祉士の義務　名称独占と業務独占
6	養成制度　　登録状況
7	専門職能団体の活動　専門職能団体としての役割・機能、その他
8	介護福祉士の専門性　日本介護福祉士会倫理綱領
9	介護実践における連携　他職種連携（チームアプローチ）　介護を必要とする人の持つ生活課題の理解
10	介護実践における連携　他職種連携（チームアプローチ）　介護実践するための職種の理解　他職種連携の必要性
11	尊厳を支える介護　自立に向けた介護　自立生活の概念　自立支援の考え方
12	介護とは何　QOL　QQLの考え方
13	ﾉｰﾏﾗｲｾﾞｰｼｮﾝの考え方　ﾉｰﾏﾗｲｾﾞｰｼｮﾝの実現　その他
14	利用者主体　利用者主体の考え方、利用者主体の実現　その他
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など）
最新・介護福祉士養成講座3巻　介護の基本Ⅰ　中央法規出版 第1章　3章	講義終了後、試験の点数を主として 出席状況を含めて評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護の基本Ⅱ	講　義 （　講義　・　演習　・　実習　）	松原　良子 （現職：介護福祉士）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（2）	1年	必修

[授業の目的・ねらい]
介護サービスを提供する対象、場所に寄らず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の基礎知識・技術を養う。
自立支援の観点から介護実践できる能力を養う。

[授業全体の内容]
自立生活への支援、個別ケア、エンパワメント、ICF、リハビリテーション

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
介護を必要とする人及び家族のさまざまな生活上の課題を理解する。各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
事例や演習を交えデスカッションをしながら講義を進める。

コマ数	第4章　自立に向けた介護
1	オリエンテーション　自立に向けた介護
2	自立支援
3	自立・自律の考え方
4	自己決定・自己選択、
5	自立支援の考え方、自立支援の具体的展開
6	生活意欲への働きかけ、エンパワメント、個別ケア
7	ICFの考え方
8	ICFの視点に基ずく利用者のｱｾｽﾒﾝﾄ、その他
9	リハビリテーションの考え方
10	リハビリテーションの実際
11	介護を必要とする人の理解
12	尊厳を支える介護　自立に向けた介護　自立生活の概念　自立支援の考え方
13	介護とは何　QOL　QQLの考え方
14	ﾉｰﾏﾗｲｾﾞｰｼｮﾝの考え方　ﾉｰﾏﾗｲｾﾞｰｼｮﾝの実現　その他
15	介護する人の生活環境の理解、まとめ

[使用テキスト・参考文献]
最新・介護福祉士養成講座第3巻　介護の基本Ⅰ　中央法規出版
第4章
最新・介護福祉士養成講座第4章巻　介護の基本Ⅱ　中央法規出版
第1章

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）
講義終了後、試験の点数を主として
出席状況を含めて評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護の基本Ⅱ	講　義 （　講義　・　演習　・　実習　）	平田 洋介 （現職：介護福祉士）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（2）	1年　後期	必修

[授業の目的・ねらい]
多職種協働やケアマネジメントなどの制度の仕組みを踏まえ、具体的な事例について介護過程を展開できるよう能力を養う。

[授業全体の内容]
他職種との連携、地域との連携、社会資源

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
他職種や地域との連携において、一人の気づきから生まれることを理解できる。介護実践におけるチームとは何か、他職種の役割を学び、チームワークに参画する意義、連携方法を理解できる。各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
事例や演習を交えデスカッションをしながら講義を進める。
最近の新聞記事や資料を用いて、身近なことから理解を深める。

コマ数	第2章　介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ
1	オリエンテーション、介護サービスの概要
2	ケアプラン・ケアマネジメントの流れとしくみ
3	介護保険サービスの種類
4	サービスの報酬、算定基準
5	介護サービスの提供の場の特性
	第3章　協働する多職種の機能と役割
6	介護実践における連携
7	多職種連携（チームアプローチ）
8	多職種連携（チームアプローチ）の意義と目的
9	他の福祉職種の機能と役割、連携
10	地域連携
11	地域連携の意義と目的
12	地域住民・ボランティア等のインフォーマルサービスの機能と役割
13	地域包括センターの機能と役割、連携　　地域包括システムについて
14	市町村、都道府県の機能と役割
15	その他、まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など）
最新・介護福祉士養成講座第4巻　介護の基本Ⅱ　中央法規出版 第2章　4章	講義終了後、試験の点数を主として 出席状況を含めて評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護の基本Ⅲ	講　義 （　講義　・　演習　・　実習　）	林　香織 （前職：理学療法士）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（2）	2年　後期	必　修

[授業の目的・ねらい]
介護サービスを提供する対象、場所に寄らず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の基礎知識・技術を養う。
自立支援の観点から介護実践できる能力を養う。
利用者のみならず、家族等に対する精神的支援や援助のために、実践的なコミュニケーション能力を養う。
多職種協働やケアマネジメントなどの制度の仕組みを踏まえ、具体的な事例について介護過程を展開できるよう能力を養う。

[授業全体の内容]
職業倫理、介護従事者の倫理、安全、観察、リスクマネジメント、介護従事者の健康管理

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
リスクマネジメント等、利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う。家族のさまざまな生活上の課題を理解する。生活上の課題の解決のために必要なサービスや、地域の中の社会資源を理解する。介護作品コンテスト出展受賞各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
事例や演習を交えて、ディスカッションしながら講義を進める。
ビデオを用いて実際の介護場面をイメージしながら授業を進めていく。
最近の新聞記事や資料を用いて、身近なことから理解を深める。

コマ数	
1	オリエンテーション、職業倫理
2	介護従事者の倫理
3	介護実践の場で求められる倫理
4	利用者の人権と介護
5	身体拘束禁止・高齢者虐待
6	プライバシーの保護・個人情報保護、その他
7	介護に携わる人の健康管理
8	健康管理の意義と目的
9	健康管理に必要な知識と技術
10	安心して働ける環境づくり
11	安心して働ける環境づくり
12	介護従事者の安全、介護従事者の心の健康管理
13	介護従事者の安全、介護従事者の身体の健康管理
14	労働安全
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]
最新・介護福祉士養成講座第4巻　介護の基本Ⅱ　中央法規出版
第5章

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）
講義終了後、試験の点数を主として
出席状況を含めて評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護の基本Ⅲ	講　義 （　講義　・　演習　・　実習　）	松原　良子 （現職：介護福祉士）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（2）	2年	必　修

[授業の目的・ねらい]
介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援を目指した介護を展開すべく、利用者や家族の生活の安全を実現・確保するためのセーフティマネジメントのあり方、その基盤となる介護従事者の安全に関する理念や理論、知識を学び、生活支援技術や介護過程、総合演習・介護実習に役立てられるようになる。ﾘｽｸﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ等、利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う。

[授業全体の内容]
介護における安全の確保とリスクマネジメント、セーフティマネジメント、感染予防、

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
安全の概念を予防・自立の点から考察し、セーフティマネジメントのあり方を理解し、説明できる。介護従事者の安全・健康管理を保証するための知識・技術を活用できるようになる。各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
事例や演習を交えて、ディスカッションしながら講義を進める。
ビデオを用いて実際の介護場面をイメージしながら授業を進めていく。
最近の新聞記事や資料を用いて、身近なことから理解を深める。

コマ数	
1	オリエンテーション、介護における安全の確保とリスクマネジメント
2	事故防止・安全対策
3	セーフティマネジメント
4	緊急連絡システム
5	転倒・転落防止・骨折予防
6	防火・防災対策
7	事故防止・安全対策
8	利用者n生活の安全
9	感染対策、感染予防の意義と介護
10	感染予防の基礎知識
11	感染管理、衛生管理
12	介護を取り巻く状況の変化と自身の学び方
13	専門職業人としての介護福祉士
14	生活者として自身がよりよく生きるために
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など）
最新・介護福祉士養成講座第4巻　介護の基本Ⅱ　中央法規出版 第3章	講義終了後、試験の点数を主として 出席状況を含めて評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
コミュニケーション技術A	講　義 （　講義　・　演習　・　実習　）	岩見　しのぶ （前職：看護師）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（2）	1年	必　修

[授業の目的・ねらい]
対象者と支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。
[授業全体の内容]
本人の置かれている状況を理解し、支援関係の構築や意思決定を支援するたためのコミュニケーションの基本的な技術を習得する。家族のおかれている状況、場面を理解し、家族の支援やパートナーシップを構築するためのコミュニケーションの基本的な技術を習得する内容。障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な技術を習得する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について理解し、自分の言葉で説明できる。利用者・家族との関係づくりについて理解する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
授業のテーマによって、ロールプレイ、グループディスカッションなど、グループ単位で活動を行う。
まとめを兼ねて講義を行う。

コマ数	
1	オリエンテーション、介護におけるコミュニケーションの基本
2	介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割
3	利用者家族との関係作り
4	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション
5	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションの実際
6	話を聴く技法
7	利用者の感情表現を察する技法（気づき、洞察力、その他）
8	納得と同意を得る技法
9	相談、助言、指導
10	意欲を引き出す技法
11	利用者本人と家族の意向の調整を図る技法
12	利用者の状況、・状態に応じたコミュニケーションの技法の実際
13	感覚機能が低下している人とのコミュニケーション
14	運動機能が低下している人とのコミュニケーション
15	認知・知覚機能が低下している人とのコミュニケーション、まとめ

[使用テキスト・参考文献]
最新・介護福祉士養成講座第5巻　コミュニケーション技術　中央法規出版
1章　2章　境井
3章　4章　岩見

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）
講義終了後、試験の点数を主として
出席状況を含めて評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
コミュニケーション技術B	講　義 （　講義　・　演習　・　実習　）	岩見　しのぶ （前職：看護師） 菊池　友達 （現職：聴覚障害者支援）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（2）	1年	必　修

[授業の目的・ねらい]
介護を必要とする者の理解や援助関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、
利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。

[授業全体の内容]
介護におけるチームのコミュニケーション、介護、利用者、家族、コミュニケーション技法、記録、報告、会議　障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な技術を習得する。
情報を適切にまとめ、発信するために、介護実践における情報の共有化の意義を理解し、その具体的な方法や情報の管理について理解する内容とする。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な技術を習得する。（聴覚障害と手話）介護チームの多職種間のコミュニケーション技法について学び、チームコミュニケーションに必要な記録や報告について学び、その技術を習得する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
授業のテーマによって、ロールプレイ、グループディスカッションなど、グループ単位で活動を行う。
まとめを兼ねて講義を行う。

コマ数	
1	介護におけるチームのコミュニケーション
2	記録における情報の共有化
3	介護における記録の意義、目的
4	介護に関する記録の種類
5	記録の方法、留意点
6	記録の管理
7	介護記録の共有化
8	情報通信技術を(IT)を活用した記録の意義、活用の留意点
9	介護記録における個人情報保護
10	介護記録の活用　　報告の意義、目的
11	手話でのコミュニケーションについて
12	手話でのコミュニケーションについて
13	手話でのコミュニケーションについて
14	手話でのコミュニケーションについて
15	手話でのコミュニケーションについて

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など）
最新・介護福祉士養成講座第5巻　コミュニケーション技術　中央法規出版 5章　岩見 手話でのコミュニケーション	講義終了後、試験の点数を主として 出席状況を含めて評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
生活支援技術A	演　習 （　講義　・　演習　・　実習　）	窪田　真由美 （前職：介護福祉士）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（2）	1年　前期	必　修

[授業の目的・ねらい]
尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立、自律を尊重し、潜在能力を引出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。利用者及びその家族等への生活を支援するために習得しておかなければならない、個々人の尊厳に根ざした、その人らしい生活とは何かを、介護実習の経験を踏まえて振り返る。

[授業全体の内容]
生活、生活形成のプロセス、生活支援の考え方、自立に向けた住環境の整備（ベッドメーキング）、自立に向けた食事の介護、福祉用具、

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
環境作りとベッドメーキングができる。介護を必要とする利用者にとってよりよい食事とは何かについて学習し、食事に関する基礎的な知識を習得する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
講義と演習を適宜組み合わせて授業を展開する。

コマ数	
1	オリエンテーション、生活理解
2	生活、生活支援
3	生活形成プロセス、生活支援の考え方
4	自立に向けた住環境の整備（ベッドメーキング）の意義・目的
5	ベッドメーキング必要物品、ベットメイキング演習
6	自立に向けた食事の介護、食事の意義と目的
7	食事に関する利用者のアセスメント
8	おいしく食べることを支える介護
9	安全で的確な食事の介助の技法
10	利用者の状態・状況に応じた介護の留意点
11	口腔ケアの介助
12	感覚機能が低下している人の介助の留意点
13	運動機能が低下している人の介助の留意点
14	認知・知覚機能が低下している人の介助の留意点
15	誤嚥・窒息の防止のための日常生活の留意点
13	脱水の予防のための日常生活の留意点
14	他の職種の役割と協働
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]
最新・介護福祉士養成講座第7巻　生活支援技術Ⅱ　1章　2章
最新・介護福祉士養成講座第7巻　生活支援技術Ⅱ　1章　2章
最新・介護福祉士養成講座第7巻　生活支援技術Ⅱ　1章　2章

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）
講義終了後、試験の点数を主として
出席状況を含めて評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
生活支援技術A	演　習 （　講義　・　演習　・　実習　）	長井　賢希 （前職：介護福祉士）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（2）	1年	必　修

[授業の目的・ねらい]
自立に向けた居住環境の整備を学ぶ。対象となる人の生活上のニーズの把握から進め、具体化していく方法を習得する。

[授業全体の内容]
生活の場、自立、ICF，居住環境、アセスメント

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
対象となる人の生活状況を整理し、ニーズの優先順位を考えることができる。環境整備の具体的な進め方を知る。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
講義と演習を適宜組み合わせて授業を展開する。

コマ数	
1	オリエンテーション、安全で心地よい生活の場づくり
2	安全で心地よい生活の場づくりのための工夫
3	快適な室内環境の確保、浴室、トイレ、台所等の空間構成
4	プライバシーの確保と交流の促進、安全性への配慮
5	住宅改修
6	住宅のバリアフリー
7	ユニバーサルデザイン
8	自立に向けた居住環境への整備
9	居住環境整備の意義と目的
10	生活空間と介護
11	居場所とアイデンティティー、生活の場、住まい、住み慣れた地域での生活の保障
12	その他
13	居住環境アセスメント
14	ICFの視点にもとづく利用者の全体像のアセスメント
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]
最新・介護福祉士養成講座第6巻
生活支援技術Ⅰ第1章　2章　4章　中央法規出版
最新・介護福祉士養成講座第8巻　生活支援技術Ⅲ

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）
講義終了後、試験の点数を主として
出席状況を含めて評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
生活支援技術B	演　習 （　講義　・　演習　・　実習　）	窪田　真由美 （前職：介護福祉士）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×30回	60時間(2)	1年　通年	必　修

[授業の目的・ねらい]
その人がその人らしく生活するための衛生管理と楽しみとなることを目指した「身じたく」の介護のプロセスと方法を学ぶ。介護福祉士として習得しておく必要のあるさまざまな「移動」における介護技術の根拠性の理解と知識・技術の基礎から応用力を学び、現場での実践で活用できる能力と、自ら考えて個別性に対応できるための能力を習得する。

[授業全体の内容]
自立に向けた身じたくの介護、自立に向けた移動の介護

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
自立に向けた身じたくを開発する努力ができる。
移動介助を必要と刷る人の状態変化に、安全・安楽に個別性を考慮した対応できる技術を習得することができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
講義と演習を適宜組み合わせて授業を展開する。

コマ数			
1	オリエンテーション、自立支援生活	16	オリエンテーション、自立に向けた移動の介護
2	自立に向けた身じたくの介護	17	移動の意義と目的
3	身じたくの意義と目的	18	移動に関する利用者のアセスメント
4	身じたくに関する利用者のアセスメント	19	安全で気兼ねなく動けることを支える介護
5	生活習慣と装いの楽しみを支える介護	20	安全で的確な移動・移乗の介助の技法
6	整容行動、衣生活、を調整する	21	歩行介助の技法
7	能力のアセスメントと介助の技法	22	車いすの介助
8	利用者の状態・状況に応じた	23	安楽な体位の保持
9	身じたくの介助の留意点	24	体位変換
10	整容・口腔の清潔演習	25	利用者の状態・状況に応じた移動の介助の留意点
11	衣服の着脱演習	26	感覚機能低下している人の介助の留意点
12	感覚・運動機能低下している人の介助の留意	27	運動機能低下している人の介助の留意点
13	認知・知覚機能が低下している人の介助の留	28	認知・知覚機能が低下している人の介助の留意点
14	他の職種の役割と協働	29	他の職種の役割と協働
15	まとめ	30	まとめ

[使用テキスト・参考文献]
最新・介護福祉士養成講座第6巻
生活支援技術Ⅰ　第3章　中央法規出版
最新・介護福祉士養成講座第8巻　生活支援技術Ⅲ

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）
講義終了後、試験の点数を主として
出席状況を含めて評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
生活支援技術C	演　習 （　講義　・　演習　・　実習　）	北村　三礼 （現職：栄養士） 窪田　真由美 （前職：介護福祉士）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×19回	38時間	1年　通年	必　修

[授業の目的・ねらい]
介護福祉士として習得しておく必要のあるさまざまな「家事」の援助技術を提供していく上での基本行動の理解と知識家事の介助に関する技術を基礎から学び、現場で自ら考えて実践的に活動できる能力や利用者の個別性に対応できるための能力を習得する。

[授業全体の内容]
日常生活、家政学、自立に向けた家事の介護、 食生活、 実習（栄養・調理）

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
家事の介助を必要とする人に、適切な家事の介助を提供できる技術を習得することができる。家事の介助を必要とする人の個別性を考慮した、介護福祉士の姿勢を習得することができる。（調理）

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
テキストを中心に講義形式　テキストより限られた時間内に実習できるものを選出

コマ数

1	オリエンテーション 自立に向けた家事の介助
2	家事の意義・目的 家事に関する利用者のアセスメント
3	家事に参加することを支える介護 工夫（意欲を出すはたらきかけ）
4 5	家事の介助の技法
6	調理 （加工食品の活用と保存、配色サービスの利用含む）
7	買い物 家庭経営・家計の管理
8	利用者の状態・状況に応じた介助の留意 他の職種の役割と協働 オリエンテーション、体の機能と栄養
9	食生活と健康、食品の成分と保存、管理、安全性 献立と調理、高齢者、障害者の食生活
10	設備。、エネルギー源、調理器具、商品衛生の関する法規
11 12 13	調理実習①
14 15 16	調理実習②
17 18 19	調理実習③

[使用テキスト・参考文献]
最新・介護福祉士養成講座第6巻3版　生活支援技術Ⅰ　中央法規出版
3章　P203～232
4章　P283～295

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）
学科終了後（講義、学科別々に）、試験の点数を主として、出席状況を含めて評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
生活支援技術C	演　習 （　講義　・　演習　・　実習　）	北村　三礼 （現職：栄養士） 窪田　真由美 （前職：介護福祉士）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×30回	60時間（2）	1年　通年	必　修

[授業の目的・ねらい]
介護福祉士として習得しておく必要のあるさまざまな「家事」の援助技術を提供していく上での基本行動の理解と知識家事の介助に関する技術を基礎から学び、現場で自ら考えて実践的に活動できる能力や利用者の個別性に対応できるための能力を習得する。

[授業全体の内容]
日常生活、家政学、自立に向けた家事の介護、 食生活、 実習（栄養・調理）

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
家事の介助を必要とする人に、適切な家事の介助を提供できる技術を習得することができる。家事の介助を必要とする人の個別性を考慮した、介護福祉士の姿勢を習得することができる。（調理）

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
テキストを中心に講義形式　テキストより限られた時間内に実習できるものを選出

コマ数	
1	オリエンテーション
2	自立に向けた家事の介助
3	家事の意義・目的
4	家事に関する利用者のアセスメント
5	家事に参加することを支える介護
6	工夫（意欲を出すはたらきかけ）
7	家事の介助の技法
8	
9	調理
10	（加工食品の活用と保存、配色サービスの利用含む）
11	買い物
12	家庭経営・家計の管理
13	利用者の状態・状況に応じた介助の留意点
14	他の職種の役割と協働
15	オリエンテーション、体の機能と栄養
16	食生活と健康、食品の成分と保存、管理、安全性
17	献立と調理、高齢者、障害者の食生活
18	設備。、エネルギー源、調理器具、商品衛生の関する法規
19	調理実習①
20	
21	調理実習②
22	
23	調理実習③
24	
25	自立に向けた食事の介護、食事の意義と目的
26	食事に関する利用者のアセスメント
27	おいしく食べることを支える介護
28	安全で的確な食事の介助の技法
29	利用者の状態・状況に応じた介護の留意点
30	口腔ケアの介助

[使用テキスト・参考文献]
最新・介護福祉士養成講座第7巻2章　中央法規出版
最新・介護福祉士養成講座第8巻　生活支援技術Ⅲ

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）
学科終了後（講義、学科別々に）、試験の点数を主として、出席状況を含めて評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
生活支援技術D	演　習 （　講義　・　演習　・　実習　）	窪田　真由美 （前職：介護福祉士）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×30回	60時間（2）	1年　通年	必　修

[授業の目的・ねらい]
介護福祉士にく必要な入浴・清潔保持に関する基礎的な知識と技術を身につける。また、プライバシーやまた楽しみとなる入浴について考える力を養う。介護福祉士にく必要な排泄に関する基礎的な知識と技術を身につける。また、個人のプライバシーや人の尊厳を重要視しながら、利用者の立場に立ったよりよい排泄の支援を考えるその技術を身につけていく。

[授業全体の内容]
入浴・清潔保持に関する介助方法、排泄介助方法

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
利用者の状況に応じた入浴・清潔の保持・排泄介助の方法を理解し、実践できる。安全に配慮するとともにプライバシーを保護し、人の尊重を重要視した対応（言葉かけ等）ができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
講義・グループワーク・演習という3つの形式で行う。

コマ数		コマ数	
1 2	オリエンテーション、入浴の意義と目的	16 17	自立に向けた排泄の介護
3 4	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	18 19	排泄の意義・目的
5 6	入浴に関する利用者のアセスメント	20 21	入浴の関する利用者のアセスメント
7 8	爽快感・安楽を支える介護	22 23	気持ちよい排泄を支える介護
9 10	安全・的確な入浴・清潔保持の介助の技法	24 25	安全・的確な排泄の介助の技法
11 12	利用者の状態・状況に応じた介助の留意点	26 27	利用者の状態・状況に応じた介助の留意点
13 14	他の職種の役割と協働	28 29	他の職種の役割と協働
15	まとめ	30	まとめ

[使用テキスト・参考文献]

最新・介護福祉士養成講座第7巻　3章　4章　中央法規出版
最新・介護福祉士養成講座第8巻　生活支援技術Ⅲ

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）

講義終了後、試験の点数を主として
出席状況を含めて評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
生活支援技術E	講義・実習 （　講義　・　演習　・　実習　）	安田　　幸 窪田　真由美 （前職：介護福祉士）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（1）	2年	必　修

[授業の目的・ねらい]
介護福祉士として習得しておく必要のあるさまざまな「家事」の援助技術を提供していく上での基本行動の理解と知識家事の介助に関する技術を基礎から学び、現場で自ら考えて実践的に活動できる能力や利用者の個別性に対応できるための能力を習得する。介護時にサポートする上で最低限必要な裁縫・洗濯・衣類の衛生管理等、利用者の状況に合わせた介助方法を学ぶ。

[授業全体の内容]
＜講義＞介護における被服の役割と機能
＜実習＞まつりやボタン付けの技術を身に付けることができる。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
家事の介助を必要とする人に、適切な家事の介助を提供できる技術を習得することができる。家事の介助を必要とする人の個別性を考慮した、介護福祉士の姿勢を習得するkとができる。（被服）

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
＜講義＞テキストを中心に講義方式で進める
＜実習＞手縫い、ミシン縫いを実際に行う

コマ数	
1	オリエンテーション、被服の役割、皮膚の衛生と被服
2	被服の素材、織物の組織、高齢者・障害の被服
3	被服の選択と管理、洗濯、裁縫
4	要介護・高齢者・障害者用衣料
5	アイロン・ミシンの使い方、基礎縫い準備
6	手縫い （並縫い、本返し、半返し、置きじつけ）
7	
8	ボタン、スナップつけ、まつり（普通、流し、千鳥がけ）、ミシン縫い
9	ミシン縫い　縫い代の始末(ロック、端、折り伏せ)
10	折り代の始末（三つ折り）
11	実習での生活支援の復讐
12	
13	実習での生活支援の復讐
14	
15	実習での生活支援の復讐

[使用テキスト・参考文献]
最新・介護福祉士養成講座第6巻5章　被服　洗濯　中央法規出版　安田
最新・介護福祉士養成講座第8巻　生活支援技術Ⅲ　中央法規出版
最新・介護福祉士養成講座第　6巻　6章　7章　　窪田

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）
＜講義＞試験の点数を中心に集積状況も含め評価する
＜実習＞制作課題の提出物による実技評価

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
生活支援技術E	演　習 （　講義　・　演習　・　実習　）	窪田　真由美 （前職：介護福祉士） 長井　賢希 （前職：介護福祉士）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（1）	2年	必　修

[授業の目的・ねらい]
睡眠・終末期の介護について、介護福祉士の役割を果たせる力量をつけるために、理念、知識、技術を鍛え、個々の利用者の特有の睡眠・終末期の状況のアセスメント、ケアプラン、実践へと応用できる力を身につける。

[授業全体の内容]
睡眠の介護、終末期の介護、緊急時対応の知識と技術

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
睡眠の重要性とリズム、高齢者の特徴を理解し、利用者の疾病、習慣、希望から睡眠行動のアセスメントができる。終末期の心身の状況を理解、QOLを高める身体、生活援助と、共感、呼応する対話で精神的サポートができる。自分自身の死生観を深めることができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
講義と演習を適宜組み合わせて授業を展開する。

コマ数	
1	オリエンテーション、自立に向けた睡眠の介護
2	睡眠の意義・目的
3	睡眠に関する利用者のアセスメント
4	安眠のための介護、安眠を促す介助の方法
5	医療との連携、緊急時の介護の意義、目的
6	利用者の状態・状況に応じた介護の留意点
7	見取りのための制度（重度化対応加算、見取り介護加算）
8	終末期の介護の意義、目的
9	終末期のおける尊厳の保持
10	事前意思確認
11	終末期における利用者のアセスメント
12	ICFの視点にもとづくアセスメント
13	臨終時の介護、臨終時の対応
14	グリーフケア
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]
最新・介護福祉士養成講座第6巻5章　被服　洗濯　中央法規出版　窪田
最新・介護福祉士養成講座第8巻　生活支援技術Ⅲ　中央法規出版
最新・介護福祉士養成講座第　6巻　6章　7章　　長井

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）
講義終了後、試験の点数を主として
出席状況を含めて評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護過程Ⅰ	講義・演習 （　講義　・　演習　・　実習　）	窪田　真由美 （前職：介護福祉士）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（1）	1年　前期	必　修

[授業の目的・ねらい]
他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養うために、学生自身が知識や技術を統合し、ケアに活かすということの意味を理解する。

[授業全体の内容]
介護過程の意義・目的・目標

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
すべてのケアの方法や手順には意味と理由があり、それを説明できなければいけないことを理解することができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
この授業は講義中心ではなく、教員は学生自身の取り組みをファシリテートし、
学生自身の思考過程で問題を解決していく方式をとる。講義と演習を並行させ、
事例を用いたグループによる討議や発表、ロールプレインなどの学生参加型授業となる。

コマ数	
1	「介護過程」の展開を学ぶ前に
2	「介護過程」の意義
3	アセスメントとケアプラン
4	アセスメントとケアプラン
5	アセスメントに必要な「事実」のとらえ方①
6	アセスメントに必要な「事実」のとらえ方②
7	アセスメントに必要な「事実」のとらえ方③
8	アセスメントに必要な「事実」のとらえ方④
9	介護過程の中の「事実」のとらえ方①
10	介護過程の中の「事実」のとらえ方②
11	とらえた「事実」を解釈するために①
12	とらえた「事実」を解釈するために②
13	とらえた「事実」を解釈するために③
14	とらえた「事実」を解釈するために④
15	とらえた「事実」を解釈するために⑤

[使用テキスト・参考文献]
最新・介護福祉士養成講座9巻　介護過程　中央法規

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）
＊満点：100点、＊合格基準点：60点
①出席（ﾘｱｸｼｮﾝﾍﾟｰﾊﾟｰの提出）（30点）
②課題提出（40点）
③グループワーク・発表への貢献度（30点）

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護過程Ⅱ	講義・演習 （　講義　・　演習　・　実習　）	窪田　真由美 （前職：介護福祉士）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（1）	1年　後期	必　修

[授業の目的・ねらい]
他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養うために、学生自身が知識や技術を統合し、ケアに活かすということの意味を理解する。

[授業全体の内容]
介護過程の展開

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
すべてのケアの方法や手順には意味と理由があり、それを説明できなければいけないことを理解することができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

この授業は講義中心ではなく、教員は学生自身の取り組みをファシリテートし、
学生自身の思考過程で問題を解決していく方式をとる。講義と演習を並行させ、
事例を用いたグループによる討議や発表、ロールプレインなどの学生参加型授業となる。

コマ数	
1	とらえた「事実」を解釈するために⑥
2	解釈した「事実」を計画に活かす①
3	解釈した「事実」を計画に活かす②
4	解釈した「事実」を計画に活かす③
5	解釈した「事実」を計画に活かす④
6	解釈した「事実」を計画に活かす⑤
7	解釈した「事実」を計画に活かす⑥
8	解釈した「事実」を計画に活かす⑤
9	解釈した「事実」を計画に活かす⑥
10	事実のとらえ方（復習）
11	事実のとらえ方（復習）
12	事実のとらえ方（復習）
13	事実のとらえ方（復習）
14	介護過程の展開①
15	介護過程の展開②

[使用テキスト・参考文献]
最新・介護福祉士養成講座9巻　介護過程　中央法規

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）
講義終了後、試験の点数を主として
出席状況を含めて評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護過程Ⅲ	講義・演習 （　講義　・　演習　・　実習　）	長井　賢希 （前職：介護福祉士） 高野　一江 （前職：看護師）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×30回	60時間（2）	2年　前期	必　修

[授業の目的・ねらい]
実習で経験したことを振り返り、介護の実践過程を構成する要素（人的・環境・ツール）の特性や活用方法を学ぶ。

[授業全体の内容]
介護過程の実践的展開、アセスメントツール、事実の解釈

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
介護過程を継続した生活の一場面としてとらえることの意味をふまえて、介護過程の展開が「情報収集→計画→実施→評価」の繰り返しであること、それぞれの段階ごとに支援者として果たすべき役割を理解することができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
この授業は講義中心ではなく、教員は学生自身の取り組みをファシリテートし、学生自身の思考過程で問題を解決していく方式をとる。講義と演習を並行させ、事例を用いたグループによる討議や発表、ロールプレイ等学生参加授業が主となる。

コマ数	
1	オリエンテーション
2	介護過程の実践的展開①
3	介護過程の実践的展開②
4	介護過程の実践的展開③
5	介護過程の実践的展開④
6	介護過程の実践的展開⑤
7	介護過程の実践的展開⑥
8	情報の共有とアセスメント①
9	
10	情報の共有とアセスメント②
11	
12	アセスメントツールの活用①
13	
14	アセスメントツールの活用②
15	
16	本人を中心とした生活を継続する介護過程の展開
17	
18	本人を中心とした生活を継続する介護過程の展開
19	
20	本人を中心とした生活を継続する介護過程の展開
21	
22	本人を中心とした生活を継続する介護過程の展開
23	
24	本人を中心とした生活を継続する介護過程の展開
25	
26	本人を中心とした生活を継続する介護過程の展開
27	
28	本人を中心とした生活を継続する介護過程の展開
29	
30	まとめ

[使用テキスト・参考文献]
最新・介護福祉士養成講座第9　介護過程

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）
講義終了後、試験の点数を主として
出席状況を含めて評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護過程Ⅳ	講義・演習 （　講義　・　演習　・　実習　）	長井　賢希 （前職：介護福祉士） 高野　一江 （前職：看護師）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（1）	2年　後期	必　修

[授業の目的・ねらい]
他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養うために、学生自身が知識や技術を統合し、ケアに活かすということの意味を理解する。

[授業全体の内容]
介護過程とチームアプローチ

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
「生活支援技術」で習う「アセスメント」と「介助の技術」や「基礎介護」、「こころとからだのしくみ」で学んだ知識は、「介護過程」中で用いることで、初めて実践で活かせるものである。
今までに習った技術と知識を総動員して専門職としての「介護過程」を身につけることはどのようなことなのかを理解することができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
この授業は講義中心ではなく、教員は学生自身の取り組みをファシリテートし、学生自身の思考過程で問題を解決していく方式をとる。講義と演習を並行させ、事例を用いたグループによる討議や発表、ロールプレイ等学生参加授業が主となる。

コマ数	
1	本人を中心とした生活を継続する介護過程の展開
2	解釈した「事実」を計画に活かす①
3	解釈した「事実」を計画に活かす②
4	解釈した「事実」を計画に活かす③
5	解釈した「事実」を計画に活かす④
6	実際の介護過程の実践の理解と実習計画①
7	実際の介護過程の実践の理解と実習計画②
8	実際の介護過程の実践の理解と実習計画③
9	実際の介護過程の実践の理解と実習計画④
10	介護過程とチームアプローチ①
11	介護過程とチームアプローチ②
12	介護過程とチームアプローチ③
13	介護過程とチームアプローチ④
14	介護過程とチームアプローチ⑤
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など）
最新・介護福祉士養成講座9巻　介護過程　中央法規	講義終了後、試験の点数を主として 出席状況を含めて評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護総合演習Ⅰ	演　習 （　講義　・　演習　・　実習　）	窪田　真由美 （前職：介護福祉士）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（1）	1年	必　修

[授業の目的・ねらい]
介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。介護の知識と技術の統合、介護実践の科学的探求につなげることができる。
[授業全体の内容]
実習の教育効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につながる内容とする。実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに自己課題を明確にし専門職としての態度を養う内容とする。質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を理解する内容とする。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
　居宅・通所・入所等の介護施設の概要と利用者の生活像と、介護福祉士の役割を理解できる。基本的コミュニケーション方法や、マナー、記録の取り方等を習得する。基本的コミュニケーション方法や、マナー、記録の取り方等を習得する。実習のイメージを膨らませ、自分自身の学習課題を言語化、明確化できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
講義・グループワーク

コマ数	
1	オリエンテーション、介護総合演習とは？
2	老人保健施設・通所介護について
3	ケアハウス・小規模多機能施設について
4	グループホームについて
5	実習の心得について　介護実習（Ⅰ-①）の目標、心得
6	多職種協働について
7	利用者・家族とのかかわを通じたコミュニケーション
8	記録の練習、介護実習前の介護技術の確認、
9	施設オリエンテーション
10	実習後の振り返りについて
11	実習後の事例報告会
12	訪問介護実習（Ⅰ-②）の目標、心得
13	記録の練習
14	介護実習前の介護技術の確認、施設オリエンテーション
15	振り返り、実習後の事例報告、会まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など）
最新・介護福祉士養成講座第10巻　介護総合演習　中央法規出版 介護実習に役立つコミュニケーション 介護福祉用語辞典	記録提出物（期限・進度・習熟度など）、 出欠状況、授業態度

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護総合演習Ⅱ	演　習 （　講義　・　演習　・　実習　）	窪田　真由美 （前職：介護福祉士）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（1）	1年	必　修

[授業の目的・ねらい]
介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。介護の知識と技術の統合、介護実践の科学的探求につなげることができる。
[授業全体の内容]
実習の教育効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につながる内容とする。実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに自己課題を明確にし専門職としての態度を養う内容とする。質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を理解する内容とする。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
　居宅・通所・入所等の介護施設の概要と利用者の生活像と、介護福祉士の役割を理解できる。基本的コミュニケーション方法や、マナー、記録の取り方等を習得する。基本的コミュニケーション方法や、マナー、記録の取り方等を習得する。実習のイメージを膨らませ、自分自身の学習課題を言語化、明確化できる。

事後指導、
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
講義・グループワーク

コマ数	
1	オリエンテーション、介護総合演習とは？
2	身体障害者療護施設について
3	重症心身障害児施設について
4	知的障害者更生施設について
5	実習の心得目標について（Ⅰ-③）
6	さまざまな対象者への介護・実習の心構えについて
7	記録の練習
8	記録の練習
9	記録の練習
10	介護実習前介護技術の確認・他職種協働
11	利用者・家族とのかかわを通じたコミュニケーション
12	実習後の振り返り
13	実習後の事例学習
14	実習後の事例報告会
15	まとめ（試験）

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など）
最新・介護福祉士養成講座第10巻　介護総合演習・介護実習　中央法規出版 介護実習に役立つコミュニケーション 介護福祉用語辞典	記録提出物（期限・進度・習熟度など）、 出欠状況、授業態度

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護総合演習Ⅲ	講義・演習・ロールプレイ （　講義　・　演習　・　実習　）	長井　賢希 （前職：介護福祉士） 高野　一江 （前職：看護師）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（1）	2年	必　修

[授業の目的・ねらい]
介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。介護の知識と技術の統合、介護実践の科学的探求につなげることができる。
[授業全体の内容]
実習の教育効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につながる内容とする。実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに自己課題を明確にし専門職としての態度を養う内容とする。質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を理解する内容とする。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
　居宅・通所・入所等の介護施設の概要と利用者の生活像と、介護福祉士の役割を理解できる。基本的コミュニケーション方法や、マナー、記録の取り方等を習得する。基本的コミュニケーション方法や、マナー、記録の取り方等を習得する。実習のイメージを膨らませ、自分自身の学習課題を言語化、明確化できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
講義・演習・ロールプレイ

コマ数	
1	介護総合演習Ⅲとは？
2	実習中の態度、心得について
3	実習前のｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝについて
4	利用者ごとの介護計画作成 記録用紙について （介護計画）QOL 事例を通し介護過程の展開 実施後の評価や計画の修正その他について
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	ファイル確認、身だしなみチェック
12	面接、最終打合せ
13	実習後の振り返り （レポート、、GW、事例報告会）
14	
15	

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など）
最新・介護福祉士養成講座第10巻　介護総合演習　中央法規出版 介護実習に役立つコミュニケーション 介護福祉用語辞典	出席率・授業態度・提出物・課題（ケアプランの作成）

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護総合演習Ⅳ	講義・演習・ロールプレイ （　講義　・　演習　・　実習　）	長井　賢希 （前職：介護福祉士） 高野　一江 （前職：看護師）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（1）	2年	必　修

[授業の目的・ねらい]
介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。介護の知識と技術の統合、介護実践の科学的探求につなげることができる。
[授業全体の内容]
実習の教育効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につながる内容とする。実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに自己課題を明確にし専門職としての態度を養う内容とする。質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を理解する内容とする。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
　居宅・通所・入所等の介護施設の概要と利用者の生活像と、介護福祉士の役割を理解できる。基本的コミュニケーション方法や、マナー、記録の取り方等を習得する。基本的コミュニケーション方法や、マナー、記録の取り方等を習得する。実習のイメージを膨らませ、自分自身の学習課題を言語化、明確化できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
講義・演習・ロールプレイ

コマ数	
1	介護総合演習Ⅳとは？
2	実習中の態度、心得について
3	実習前のｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝについて
4	利用者ごとの介護計画作成 記録用紙について （介護計画）QOL
5	
6	
7	事例を通し介護過程の展開
8	
9	
10	実施後の評価や計画の修正その他について
11	ファイル確認、身だしなみチェック
12	面接、最終打合せ
13	実習後の振り返り （レポート、、GW、事例報告会）
14	
15	

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など）
最新・介護福祉士養成講座第10巻　介護総合演習　中央法規出版 介護実習に役立つコミュニケーション 介護福祉用語辞典	出席率・授業態度・提出物・課題’ケアプランの作成）

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護実習Ⅰ・Ⅱ	実習 （　講義　・　演習　・　実習　）	窪田　真由美　　長井賢希 （前職：介護福祉士） 高野一江　　岩見しのぶ （前職：看護師）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
60日間（450時間）	450時間（10単位）	1年・2年	必修

[授業の目的・ねらい]
地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。本人の望む生活の実現に向けて多職種との連携と協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。

[授業全体の内容]
①介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶこととする。②多職種協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ内容とする。③地域における生活支援の実践として、対象者の生活と地域とのかかわりや、地域での生活支援を実践的に学ぶ内容とする。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
個々の利用者の生活背景や生活リズムを理解し、必要な情報収集し、自立支援の観点から実際の場面での介護過程の展開ができる。また、その際には、利用者や実習指導者をはじめとした介護職員と相談しながら立案した介護計画に基づいた介護を提供し、自ら行なった介護実践の評価や計画の修正が行えるようにする。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

（1）介護技術の確認・多種協働の実践・利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践
さまざまな対象者への介護の理解・多様な介護サービスの理解
（2）利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれをふまえた計画の修正といった一連の介護過程の実践

1、介護実習Ⅰ－①　　1年　　7月～8月　　10日間　　80時間

通所介護・・・小規模多機能・グループホーム 障害者福祉施設・救護施設他実習他実習

2、介護実習Ⅰ－②　　1年　　11月　　15日間　　100時間

合計　25日間180時間

3、介護実習Ⅱ－①　　2年　　7月　　20日間　　160時間

老人保健施設・　特別養護老人ホーム　実習他実習

4、介護実習Ⅱ－②　　2年　　9月　　15日間　　110時間

特別養護老人ホーム・障害者福祉施設・救護施設他実習

合計　35日間270時間

総合計　60日間450時間

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など）
実習の手引き 資料　段階毎の要領 最新・介護福祉士養成講座第10巻　介護総合演習　中央法規出版 介護実習に役立つコミュニケーション 介護福祉用語辞典	各実習施設・事業所の評価表にそって行なう。 （学生の自己評価も参考にする） 総合評価は、施設・事業所における評価と本学における実習事前事後の評価をもとにして総合的に決定する。必要に応じて、実習後補習課題を提示する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護実習Ⅰ・Ⅱ	実習 （　講義　・　演習　・　実習　）	窪田　真由美　　長井賢希 （前職：介護福祉士） 高野一江　　岩見しのぶ （前職：看護師）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
60日間（450時間）	450時間（10単位）	1年・2年	必修

[授業の目的・ねらい]
地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。本人の望む生活の実現に向けて多職種との連携と協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。

[授業全体の内容]
①介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶこととする。②多職種協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ内容とする。③地域における生活支援の実践として、対象者の生活と地域とのかかわりや、地域での生活支援を実践的に学ぶ内容とする。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
個々の利用者の生活背景や生活リズムを理解し、必要な情報収集し、自立支援の観点から実際の場面での介護過程の展開ができる。また、その際には、利用者や実習指導者をはじめとした介護職員と相談しながら立案した介護計画に基づいた介護を提供し、自ら行なった介護実践の評価や計画の修正が行えるようにする。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

（1）介護技術の確認・多種協働の実践・利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践
　さまざまな対象者への介護の理解・多様な介護サービスの理解
（2）利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれをふまえた計画の修正といった一連の介護過程の実践

1、介護実習Ⅰ－①　　1年　　7月～8月　　10日間　　80時間

通所介護・・・小規模多機能・グループホーム 障害者福祉施設・救護施設他実習他実習

2、介護実習Ⅰ－②　　1年　　11月　　15日間　　100時間

合計　25日間180時間

3、介護実習Ⅱ－①　　2年　　7月　　20日間　　160時間

老人保健施設・　特別養護老人ホーム　実習他実習

4、介護実習Ⅱ－②　　2年　　9月　　15日間　　110時間

特別養護老人ホーム・障害者福祉施設・救護施設他実習

合計　35日間270時間

総合計　60日間450時間

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など）
実習の手引き 資料　段階毎の要領 最新・介護福祉士養成講座第10巻　介護総合演習　中央法規出版 介護実習に役立つコミュニケーション 介護福祉用語辞典	各実習施設・事業所の評価表にそって行なう。 （学生の自己評価も参考にする） 総合評価は、施設・事業所における評価と本学における実習事前事後の評価をもとにして総合的に決定する。必要に応じて、実習後補習課題を提示する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
発達と老化の理解Ⅰ	講　義 （　講義　・　演習　・　実習　）	田嶋　みなと （前職：臨床心理士） 高野　一江 （前職：看護師）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（2）	1年	必　修

[授業の目的・ねらい]
人間の成長と発達の過程における、身体的、心理的、社会的変化及び、老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要は基礎的な知識を習得する学習とする。
[授業全体の内容]
人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクルの各期(乳児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的と発達課題及び特徴的な疾病について理解する内容とする。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
老化と発達の根拠に基づき、利用者の社会参加や自己実現を目指す活動に関しての介護が実践できるようになる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
テキストを中心に講義方式で進める。

コマ数	
1	オリエンテーション、人間の成長と発達の基礎的理解
2	発達の定義
3	発達課題
4	老年期の発達と成熟
5	老年期の定義、WHO
6	老人福祉法
7	老人保健法の老人医療制度
8	老化に伴う　こころの変化　と日常生活
9	防衛反応（反射神経）の変化
10	回復力（抵抗力）の変化
11	適応力（順応力）の変化
12	高齢者の心理 老化を受け止める高齢者の気持ち
13	社会や家庭での役割を失う高齢者の気持ち 障害を受け止める高齢者の気持ち
14	友人との別れを受け止める高齢者の気持ち 経済的不安を抱える高齢者の気持ち
15	

[使用テキスト・参考文献]	
最新・介護福祉士養成講座第11巻　発達と老化の理解　中央法規出版 1，2，3章　　田嶋　　4章　高野	定期考査　受講態度を含め評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
発達と老化の理解Ⅱ	講　義 （　講義　・　演習　・　実習　）	高野　一江 （前職：看護師）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（2）	1年	必　修

[授業の目的・ねらい]
人間の成長と発達の過程における、身体的、心理的、社会的変化及び、老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要は基礎的な知識を習得する学習とする。
[授業全体の内容]
老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や、高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康維持・増進を含めた生活支援するための基礎的な知識を理解する内容とする。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
介護実践に必要な知識という観点から、体と心のしくみについての知識を養う。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
テキストを中心に講義方式で進める。

コマ数

1　オリエンテーション、老化に　伴うからだの変化と日常生活
2　老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響
3　身体的機能の変化と日常生活への影響
4　高齢者の感覚機能の変化と日常生活
5　老化に伴う知的機能変化と日常生活への影響
6　知的認知機能の変化と日常生活への影響
7　精神的機能の変化と日常生活への影響
8　高齢者と健康
9　高齢者の疾病と生活上の留意点
10　高齢者の疾病と生活上の留意点症状の現れ方の特徴
11　高齢者の体の不調の訴え
12　高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点
13　保健医療と連携
14　保健医療と連携の必要性と連携のポイント
15　まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
最新・介護福祉士養成講座第11巻　発達と老化の理解　中央法規出版 5章	（試験やレポートの評価基準など） 講義終了後、試験の点数を主として 出席状況を含めて評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
認知症の理解Ⅰ	講　義 （　講義　・　演習　・　実習　）	飯田　敦子 （現職：介護福祉士）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（2）	1年	必　修

[授業の目的・ねらい]
認知症の人の心理や身体的機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に捉え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。
[授業全体の内容]
認知症のケアの歴史や理念を含む、認知症を取り巻く社会的環境的環境について理解する内容とする。医学的・心理的側面から、認知症の原因となる疾患及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を理解する内容とする。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
認知症に関する基礎知識を理解する。（機能の変化と日常生活への影響を理解し、必要とされる心理的社会的ケアについての基礎知識を養う。）

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
テキストを中心に講義方式で進める。

コマ数	
1	オリエンテーション、認知症を取り巻く状況
2	認知症ケアの歴史
3	認知症ケアの理念
4	認知症高齢者の現状と今後
5	認知症に関する行政の方針と施策
6	医学的側面から見た認知症の基礎
7	認知症による障害
8	記憶障害
9	見当障害
10	失語、失行、失認、その他
11	認知症と間違えられやすい症状、うつ病、譫妄
12	認知症の原因となる主な病気の症状の特徴
13	若年性認知症
14	病院で行われる検査、治療の実際
15	予防、まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など）
最新・介護福祉士養成講座第13巻　認知症の理解　中央法規出版 第1，2，3　章 認知症指導管理士（初級）資格試験	講義終了後、試験の点数を主として 出席状況を含めて評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
認知症の理解Ⅱ	講　義 （　講義　・　演習　・　実習　）	飯田　敦子 （現職：介護福祉士）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（2）	2年	必　修

[授業の目的・ねらい]
認知症の人の心理や身体的機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に捉え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。

[授業全体の内容]
認知症の人の生活及び家族や社会的との関わりへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行い、本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践につながる内容とする。連携と協働においては認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制や、多職種連携・協働による支援の基礎的な知識を理解する内容とする。家族支援においては、認知症の人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援につながる内容とする。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
認知症指導管理士の資格取得　認知症カフェの在り方を通して地域での認知症の人の生活の関わりについて理解、実践する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
テキストを中心に講義方式で進める。

コマ数	
1	オリエンテーション、認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活
2	認知症の人の特徴的な心理行動
3	認知症に及ぼす心理的影響
4	周辺症状の背景にある、認知症のある人の特徴的な心の理解（混乱、不安、怯え、孤独感、怒り、悲しみ、その他）
5	認知症に伴う機能の変化と日常生活への影響
6	認知症の人の特性を踏まえたセスメント（保たれている能力低下している能力の把握、家族との関係の把握、その他）
7	環境変化が認知症の人に与える影響（なじみの人間関係、居住関係、その他）
8	連携と協働
9	地域におけるサポート体制
10	地域包括センターの役割・機能
11	コミュニティ　地域連携　町づくり
12	ボランティアや認知症サポーター役割・機能
13	チームアプローチ
14	家族への支援、その他
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など）
最新・介護福祉士養成講座第12巻　認知症の理解　中央法規出版 5，6，7，8章 認知症指導管理士公式テキスト	講義終了後、試験の点数を主として 出席状況を含めて評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
障害の理解Ⅰ	講　義 （　講義　・　演習　・　実習　）	早瀬　晋 （現職：介護福祉士） 岩見　しのぶ （前職：看護師）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間	1年	必　修

[授業の目的・ねらい]
障害のある人や心理や身体機能に関する基礎的知識を取得するとともに障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。

[授業全体の内容]
障害者の基本的理解、障害の医学的側面の基礎知識、障害に伴う機能変化と日常生活への影響

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
介護福祉士として重要な、障害をもつ者の気持ちを理解しようと務め、支援を考える能力を身に付ける。

[授業の日程と各回のテーマ・内容·
テキストを中心に講義方式で進める。

コマ数	
1	**第1章　障害の基礎的理解**
2	第1節　障害の概念（障害のある人の暮らし　障害とは何か）
3	第2節　障害の概念（わが国における障害者の法的定義　障害者数）
4	第3節　障害者福祉の基本理念（ノーマライゼーション　リハビリテーションなど）
5	第4節　障害者福祉の基本理念（インクルージョンなど）
6	**第2章　障害別の基礎的理解と特性に応じた支援**　1節　障害のある人の心理
7	2節　肢体不自由
8	3章　視覚障害
9	4章　聴覚・言語障害
10	5章　重複障害
11	6章　内部障害
12	7章　重症心身障害
13	**第3章　障害のある人の生活理解　Ⅱ**　1節　知的障害
14	2節　精神障害
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]
最新・介護福祉士養成講座第14巻　障害の理解　中央法規出版
1章　3 章　1節　2節　早瀬
2章　岩見

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）
講義終了後、試験の点数を主として
出席状況を含めて評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
障害の理解Ⅱ	講　義 （　講義　・　演習　・　実習　）	岩見しのぶ （前職：看護師）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（3）	2年　通年	必　修

[授業の目的・ねらい]
障害のある人や心理や身体機能に関する基礎的知識を取得するとともに障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。

[授業全体の内容]
障害者の基本的理解、障害の医学的側面の基礎知識、障害に伴う機能変化と日常生活への影響

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
介護福祉士として重要な、障害をもつ者の気持ちを理解しようと務め、支援を考える能力を身に付ける。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
テキストを中心に講義方式で進める。

コマ数			
1	オリエンテーション、障害の基礎的理解	13	障害の理解のまとめ
2	精神障害	14	障害の理解のまとめ
3	精神障害	15	障害の理解のまとめ
4	発達障害		
5	発達障害		
6	難病		
7	障害のある人に対する介護		
8	障害のある人に対する介護		
9	家族への支援		
10	家族への支援		
11	連携と協働		
12	連携と協働		

[使用テキスト・参考文献]
最新・介護福祉士養成講座第14巻　障害の理解　中央法規出版
3章　3節　4節　5節　　まとめ　岩見　　8コマ
4章　5章　早瀬　　7コマ

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）
講義終了後、試験の点数を主として
出席状況を含めて評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
こころとからだのしくみⅠ	講　義 （　講義　・　演習　・　実習　）	田嶋みなと （前職：臨床心理士）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（2）	1年	必　修

[授業の目的・ねらい]
介護の必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。
[授業全体の内容]
介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解する内容とする。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
こころのしくみ基本的な理解を図ることができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
テキストやプリントを用いた講義、レポート作成など。

コマ数		
1	オリエンテーション、こころのしくみの理解	
2 3 4	人間の欲求の基本的理解	・基本的欲求 ・社会的欲求 ・その他
5 6 7 8	自己概念と尊厳	・自己概念に影響する要因 ・自立への意欲と自己概念 ・自己実現といきがい ・その他
9 10 11 12 13 14	こころのしくみの基礎	・こころのしくみに関する諸理論 ・思考のしくみ ・学習・記憶・思考のしくみ ・感情のしくみ ・意欲・動機づけのしくみ ・適応のしくみ ・その他
15	まとめ	

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など）
最新・介護福祉士養成講座第11巻　こころとからだのしくみ　中央法規出版	講義終了後、試験の点数を主として 出席状況を含めて評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
こころとからだのしくみⅡ	講　義 （　講義　・　演習　・　実習　）	高野　一江 （前職：看護師）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（2）	1年	必　修

[授業の目的・ねらい]
介護の必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。
[授業全体の内容]
介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解する内容とする。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
からだのしくみ基本的な理解を図ることができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
テキストやプリントを用いた講義、レポート作成など。

コマ数	
1 2 3	オリエンテーション、<u>からだのしくみの理解</u>
4 5 6 7 8	からだのしくみの基礎 生命の維持・恒常のしくみ（体温、呼吸、脈拍、血圧、その他）
9 10	人体部位の名称
11 12	ボディメカニクス
13 14	間接の可動域、その他
15	まとめ

最新・介護福祉士養成講座第11巻　こころとからだのしくみ　中央法規出版 見て覚える！介護福祉士国試ナビ	[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 講義終了後、試験の点数を主として 出席状況を含めて評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
こころとからだのしくみⅢ	講　義 （　講義　・　演習　・　実習　）	高野　一江 （前職：看護師）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（2）	2年	必　修

[授業の目的・ねらい]
介護の必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。
[授業全体の内容]
生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する内容とする。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
介護実践の根拠となる人体の構造・機能、こころのしくみを介護実践との関連の中で理解していく。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
テキストやプリントを用いた講義、グループ学習、レポート作成など。

コマ数	
1	オリエンテーション、身じたくに関連したこころとからだのしくみ
2	身じたくに関連したこころとからだの基礎知識
3	機能の低下・障害が及ぼす整容行動への影響
4	生活場面におけるこころとからからだの変化の気づきと医療職の連携
5	移動に関連したこころとからだのしくみ
6	移動に関連したこころとからだの基礎知識
7	移動に関連したこころとからだのしくみ
8	機能の低下・障害が及ぼす移動への影響
9	生活場面におけるこころとからからだの変化の気づきと医療職の連携
10	食事に関連したこころとからだのしくみ
11	食事に関連したこころとからだの基礎知識
12	機能の低下・障害が及ぼす食事への影響
13	食べることに関連したからだとこころのしくみ
14	機能低下・障害が及ぼす食事への影響
15	生活場面におけるこころとからからだの変化の気づきと医療職の連携、まとめ

[使用テキスト・参考文献]
最新・介護福祉士養成講座第11巻　こころとからだのしくみ　中央法規出版
最新・介護福祉士養成講座第8巻　生活支援技術Ⅲ8　中央法規出版
見て覚える！介護福祉士国試ナビ

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）
講義終了後、試験の点数を主として
出席状況を含めて評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
こころとからだのしくみⅣ	講　義 （　講義　・　演習　・　実習　）	高野　一江 （前職：看護師）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（2）	2年	必　修

[授業の目的・ねらい]
介護の必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。
[授業全体の内容]
生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する内容とする。
人間の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、生活支援を行うために必要となる基礎的な知識を理解する内容とする。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
介護実践の根拠となる人体の構造・機能、こころのしくみを介護実践との関連の中で理解していく。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
テキストやプリントを用いた講義、グループ学習、レポート作成など。

コマ数		
1 2 3 4	オリエンテーション 入浴、清潔保持に関連した こころとからだのしくみ	・入浴、清潔に関連したこころとからだの基礎知識 ・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ ・機能低下・障害が及ぼす入浴、清潔保持への影響
5 6 7 8	排泄に関連した こころとからだのしくみ	・排泄に関連したこころとからだの基礎知識 ・排泄に関連したこころとからだのしくみ ・機能低下・障害が及ぼす排泄への影響 ・生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職の連携
9 10 11 12	睡眠に関連した こころとからだのしくみ	・睡眠に関連したこころとからだの基礎知識 ・睡眠に関連したこころとからだのしくみ ・機能低下・障害が及ぼす睡眠への影響 ・生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職の連権
13 14	死にゆく人の こころとからだのしくみ	・「死」の捉え方 ・終末期から危篤、死亡時のからだへの理解 ・「死」に対するこころの理解 ・医療職との連携
15	まとめ	

[使用テキスト・参考文献]
最新・介護福祉士養成講座第11巻　こころとからだのしくみ　中央法規出版
最新・介護福祉士養成講座第8巻　生活支援技術Ⅲ　中央法規出版
見て覚える！介護福祉士国試ナビ

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）
講義終了後、試験の点数を主として
出席状況を含めて評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
医療的ケア	講義 （　講義　・　演習　・　実習　）	岩見　しのぶ （前職：看護師） 高野　一江 （前職：看護師）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×38回	75時間（5単位）	2年	必修

[授業の目的・ねらい]
　医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。
[授業全体の内容]
医療的ケアの実施に関する制度の概及び医療的ケアと関連づけた「個人の尊厳と自立」、「医療的ケアの倫理上の留意点」、「医療的ケアを実施するための感染予防」、「安全管理体制」等についての基礎的知識を理解する内容とする。喀痰吸引・経管栄養においては根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的知識、実施手順方法を理解する内容とする。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
　医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
コマ数
1　人間と社会
2　保険医療制度とチーム医療
3　安全な療養生活
4　救急蘇生法
5～7　清潔の保持と感染予防
8～9　健康状態の把握
10～15　高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論
16～21　高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論
22～30　高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」演習についての解説
31～38　高齢者及び障害児・者の「経管栄養」演習についての解説

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
介護福祉士養成講座　　１５巻　医療的ケア　中央法規	講義終了後、筆記試験の点数(6割以上)により知識の習得を確認する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
医療的ケア	演習 （　講義　・　演習　・　実習　）	岩見　しのぶ （前職：看護師） 高野　一江 （前職：看護師）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回 救急蘇生法を含む	30時間（1単位）	2年　後期	必修

[授業の目的・ねらい」
　医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
　医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する
[演習の目標]
安全な喀痰吸引等の実施のため、確実な手技を習得する内容とする。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

　コマ数
演習
1　たんの吸引　　口腔　…　5回以上
2　　鼻腔　…　5回以上
3　　気管カニューレ内部　…　5回以上
4
5
6
7
8
9　経管栄養　　経管栄養　胃ろう又は腸ろう　…　5回以上
10　　経鼻経管栄養　…　5回以上
11
12
13
14
15　　救急蘇生法演習　…　1回以上

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
最新介護福祉士養成講座 15巻　医療的ケア　中央法規	（試験やレポートの評価基準など） 演習は、筆記試験合格後、痰の吸引、経管栄養の演習を行う。 演習は各行為ごとに5回実施を行う。 実施の2回までは手順を読み上げ、3回目は独力で行い、4回、5回目を本番評価とする。最終的に5回目が手順通りに出来ていることで合格となる。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
国家試験対策	演　習 （　講義　・　演習　・　実習　）	窪田　真由美　長井賢希 （前職：介護福祉士） 高野一江　　岩見しのぶ （前職：看護師）

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
90分×15回	30時間（1）	2年	必　修

[授業の目的・ねらい]
2017年度の卒業生から国家試験の受験が任意となり、2022年度の卒業生から国家試験の受験義務となる予定を受けて、国家試験が円滑に対応できるよう、早期に国家試験合格に向けた学習力を習得する。

1）国家試験に傾向と対策、学習の仕方を取得する
2）国家試験合格に向けて、学生が自主的かつ自立して学習を進めることができるよう支援するとともに、弱点科目は補講で克服。

[授業全体の内容]
各領域の講義　問題　模擬試験で評価し合格圏内に入るかで繰り返し実施
国家試験に向けて学習するポイントをつかむ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
国家試験に向けて学習するポイントをつかむ。模擬試験の結果を活用して自分の弱点を克服し合格圏内を目指す。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
講義・演習・試験

コマ数	
1 2 3 4 5 6	4分野（介護　こころとからだのしくみ　人間と社会　医療的ケア）の各領域について集中講義　演習
7 8 9	問題演習 講義で理解した内容を問題演習を実施しアウトプットできるように定着。
10 11 12	国家試験模擬試験の実施
13 14 15	模擬試験の結果を活用して自分の弱点を克服し合格圏内を目指す

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
見て覚える介護福祉士国試ナビ 介護福祉士国家試験合格ドリル 資料（プリント）	（試験やレポートの評価基準など） 試験対策講義終了後、模擬試験の点数を主として出席状況を含めて評価する。